

第41回
シリーズ探訪・探求

訪れたいまち

たまむらまち
群馬県玉村町

ばくしゅう 麦秋の匂い立つまち

玉村

群馬県南部の平坦地に位置し、古くは日光例幣使道（江戸時代、徳川家康を祀る日光東照宮の春の大祭に、京都の朝廷から幣帛（贈り物）を奉納するために派遣された使者「日光例幣使」が通るために整備された道）の宿場町として栄えた町。

静かな森に囲まれて

鎮座する八幡さま

玉村町の中心地である上新田・下新田地区は、町を東西に抜ける県道142号沿いに、今も宿場としての面影を「玉村八幡宮」を中心に多く残している。玉村八幡宮禰宜梅林さんにお話を伺った。

「元々八幡さまは親子の神様として知られ、開運招福・一門繁栄を願う武家の守り神でしたが、日光例幣使道が開設されると玉村宿の鎮守社としてばかりでなく、道中安全の守り神として往来する方々にも広く崇敬されるお宮となりました。また、安産・子育てや交通安全としての神様でもあります」。境内を見渡すと町外からのお宮参りや、境内の住人である鯉に餌やりをする子どもの姿など、笑顔の親子でにぎわっていた。また、車が納車されると同時に祈願をされる方が多いという。「納車が遅れているので祈禱を遅らせて



玉村八幡宮 禰宜
梅林 健二さん

ほしい』とおっしゃる方もいますよ」（梅林さん）

町の交流・情報発信拠点
「道の駅 玉村宿」

地方部ではマイカー中心の生活となっている地域が多く、玉村町も同様である。このような地域の「道の駅」は、交流・情報発信拠点としての機能を發揮している。関越自動車道高崎玉村スマートICから車で2、3分という好立地にある「道の駅 玉村宿」にお邪魔した。

平成27年5月にオープンしてから、3年目を迎える。取材日は、平日の午前中にもかかわらず大盛況であった。オープン



● 随神門

慶応元年（1865年）に建てられた門で、随神とは八幡さまをお守りする神様



● 社殿

社殿は手前から拝殿・幣殿・本殿と一体となっている



● 本殿

室町末期の建築様式を残す三間社流造り。明治41年8月に群馬県で最初の特別保護建造物（旧国宝）に指定され、現在は国の重要文化財となっている。



● 願い玉

境内の神に掛かっている玉は「願い玉」と呼ばれ、参拝者が願い事を込めて掛けていったもの。玉のように美しい実となり、願い事がかないますように。

● 昇龍の松・勝運の松

玉村八幡宮の社から外へ外へと成長し、「V」の字に育った。この松の木のように皆さまの運氣も上昇しますように。



玉村八幡宮

● 自動車交通安全祈禱所

納車されるとともに多くの新車が訪れる



当初から駅長を務める筑井さんに、にぎわいの秘訣を教えてくださいました。「大きく2つあると思います。まず1つ目は、道の駅がICと目と鼻の先であり県内の主要都市を繋ぐ国道354号沿いにあることで交通の利便性の良さがありません。2つ目は、セロリやきゅうりなど新鮮な地場産野菜や上州豚などの上質な肉、道の駅内で加工される玉村産の水なすを使った漬物、地場産食材をふんだんに使用した美味しいグルメなど多くの玉村名物を取りそろえてあります。おかげ様で大盛況です！」

さつかに追い風が吹いてきた。

国土交通省が、高速道路を一旦出て「道の駅」で休憩したのち高速道路に戻っても目的地までの料金が降りずに利用した料金そのままとする試行を全国の3カ所で行うことになった。「道の駅 玉村宿」がそのうちの1つとして指定された。

「この報道がきっかけとなり『道の駅 玉村宿』を知ってもらい、足を運んでくださったお客様もたくさんいらっしゃいます」。さらに筑井さんは語る。「車での利用者だけでなく、利根川サイクリングロードから近いため自転車の利用者も多いため、屋根付き駐輪場を整備し、人だけでなく自転車も快適に休憩できる道の駅にしたい。この実証実験の場として選定されたことを好機と捉え、ハード・ソフト両面を充実させて、多くのお客様に立ち寄りいただける道の駅を目指しています。具体的にどのような取り組みをされているのかを尋ねてみた。



道の駅 玉村宿 駅長 筑井 俊光さん

もっとあるある！

玉村自慢

● 田園夢花火たまむら花火大会

県内でも一番早い時期に開催され、「群馬の夏は玉村の花火から」といわれている。田園地帯で打ち上げるため、花火が水面に映りさらなる美しさを演出させる。また、遮る物がいっさいなく大迫力！今年は町制60周年を記念して、7月15日（土）に開催予定。

● 和泉屋（井田酒造）

現存する玉村町最古の民家建築。江戸時代は代々問屋役を務め、江戸の中ごろより造り酒屋を営み、現在も酒屋を営んでいる。この他にも、町中に生き続ける歴史的資産が多く存在する。



高速道路本線からの案内



休憩施設などへの一時退出を可能とする「賢い料金」

一時退出した場合でも、高速を降りずに利用した料金そのまま（ターミナルチャージ^{*1}の再徴収をせず、長距離通減^{*2}なども継続）

5月27日
実験開始

^{*1} 利用1回当たりの料金
^{*2} 一定距離以上を連続して利用した場合の料金割引措置



- ETC2.0搭載車を対象として、高速道路外の休憩施設などへの一時退出を可能とする実験を3カ所でも実施
- 今後、全国の高速度道路で休憩施設の間隔がおおむね25km以上ある約100区間について、半減することを目指す
- これにより、休憩施設などの不足を解消し、良好な運転環境を実現するとともに地域の活性化を図る



●屋根付き駐輪場

直射日光や雨風から守ります



●玉村産の新鮮な野菜

写真上からセロリ、アイスプラント、トマト

●肉の駅

注文を受けてから揚げるので、熱々のロケやメンチカツなどが楽しめる



町内に全国食肉卸売市場という肉の市場があるため、お総菜だけでなく、上州豚や上州牛といった上質で新鮮な肉もそろっている。



町内にある群馬県立女子大学の学生がデザインした壁画と白を基調とした公衆トイレは、明るく清潔感漂う。24時間利用可能となっている。



玉村町の魅力を全国にPRするためにがんばっています!

玉村町マスコットキャラクター「たまたん」

玉村町ホームページ <https://www.town.tamamura.lg.jp/>



1番人気は「水なすの漬物」

●玉村のお漬物

道の駅内で加工されている



●道の駅 玉村宿 名物「玉村カレー」

もともとは地元の学校給食で出されていたメニューをアレンジした玉村宿の名物。玉村産のおいしいお米や地元産の野菜や上州豚を使い、玉村の恵みを堪能できる。

道の駅 玉村宿



●赤ちゃんの駅

授乳やおむつ替えができる。ミルク用のお湯もある。



「にぎわえればと思っています」と願いを込めて語った。
玉村町には、鉄道の駅がなく隣接する高崎市の駅が最寄りとなる。鉄道駅はなくても、「道の駅」が地域住民の交流拠点として栄えれば、交通の要地としますます発展していける。玉村町出身の筑井駅長に町の魅力についても尋ねてみた。
「上毛三山(赤城山・榛名山・妙義山)

は、町民にとって子どもの頃からとても身近で大きな存在です。ふるさとへ帰ってくる時、上毛三山が見えると「お帰りなさい」と迎えてくれてなんだかホッとします。作物も多く育ち、特にセロリは県内で玉村のみ生産しています。また、麦と稲の収穫期のみ見ることができる黄金色に染まる畑は、幾度見ても美しいです!でも、夏はとても暑く、冬は『上州名物の空っ風』

が吹いてとても寒いですけどね」と穏やかな笑顔で語ってくれた。
かつて日光例幣使道の宿場町として、人と物資がさかんに行き交い、都の文化が流入して栄えた玉村。今でも受け継がれているまちの財産や誇りを携えて、これからも日の光へと続く道を歩いていく。



●麦畑

5月の終わりから6月の初めごろ、実りの時期を迎え黄金色に染まる

二毛作地帯である玉村町では、初夏は麦、秋は稲が収穫期を迎え、町一帯に黄金色のじゅうたんが広がります。「^{ほくしゅう}麦秋の郷」玉村町へ、ぜひお越しください!



玉村町役場の平野さん(写真左)と中島さん